



東京リハビリニュース



発行 / 社会福祉法人 東京リハビリ協会

東京都立川市富士見町 7-33-3 TEL / 042-521-1234 FAX / 042-521-1203

E-mail / ma01@trg.jp ホームページ / <http://www.trg.jp/>

2023
3
No.184

今号の 主な記事

創業の精神忘れぬために・原点回帰	1
シリーズ 32 苦言 甘言	2
令和4年度 職員研修会開催	3
五日市警察署のご協力による交通安全講習会開催	3
事業所だより	4



創業の精神忘れぬために・原点回帰

理事長 緑川 清美

新しい年が変わり、5月より新型コロナウイルスの感染症法上の5類への移行に合わせ、ようやくコロナ禍前の状態に戻していくことが出来そうである。

各事業所では、重症化リスクの高い利用者の方々も多いことから、これまで規模を縮小せざるを得なかった年間行事を、経験してきた知恵と工夫による感染予防対応等により緩やかに復活させていきたい。

また本年は、来年2024年9月に迎える創業60周年に向けて、弊会がスタートした出発点に立ち返り、初心創設の心を取り戻す『原点回帰』の年にしたい。

現在弊会は、利用者、役員、パート職員、委託の配送員、警備員、給食業務の方々等、全体で約360名が働いている。創業時と今では働く人の意識も変わり、経営環境も変わっていく中だからこそ、今、弊会がどのような想いを持って創設されたか等を再認識する時である。

創業の原点を忘れては新たな進化はない。そして、進化するために大切なことは、従事者が存分に可能性を發揮出来る「場」になっていることが肝心であり、そのために東京リハビリ協会をどのような「場」に今後していくかが、持続的成長に欠かせない。

従事者が幸せであり、一人ひとりの可能性の引き出しを引き出せることが、経営をする上での喜びである。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



業務執行理事 齋藤 公生

「人間が生きるためには、多くの問題と闘って、乗り越えなければならぬ」

永く生きていく間に、この言葉を、

数え切れないほど聞いてきた。聞いて

きたと言うより、障害を持っていて

自分達には、多分障害を持っていない

人の何百回、何千回も多く聞いて、

今日があると思う。一種一級の重度障

害者と言っても、車椅子に乗れば、ど

こにでも行けるし「見ること」「話

すことも」「判断することも」「生きる

ことも」出来る。しかし、出来ない人

も多くいる。その為に、福祉施設等が

あり、支援している。

職員による利用者への虐待

昨年末に、北海道の二つの法人で、障害者支援に問題が起きた事をマスコミが報じていた。

一つは、北海道西興部村の知的障害者施設「清流の里」で、男性職員6名が、男性利用者を全裸にして、長時間放置する事件を起こしたことである。

札幌市の施設が発刊している新聞によると、職員複数人数による虐待は、日頃の研修など十分でなく、

低い意識のまま障害者支援に入つた事を指摘していた。

法人だけの責任？制度の遅れ？

一つは、北海道江差町の「あすなろ福祉会」が20年以上前から運営するグループホームで知的障害者が結婚する場合、子育てサービスは、法人では経験がないので提供出来ないと言え、不妊処置を提案したことである。

この行為に対し、地元のマスコミヤ、各種福祉団体から非難の声が出ていると言う。

我が国第1号！入所授産の寮を廃止したら7名が結婚

話は、26年前の1997年（平成9年）に遡る。

当時、都下稲城市に有った、入所授産施設が、老朽化し立て替えるを検討している時に厚生省（現・厚労省）が、就労の場と生活の場の「職住分離」施策を提案していた。

しかし、入所部門を廃止することは未知の世界で、関係者は不安を抱えており、全国の入所授産施設の誰からも手が上がらず、弊会に誘いがあつてもともと入所施設で、6畳間に他人2人と同居していた苦い経験があり、入所施設廃止の考えを持つていた事もあり、関係者と議論を重ねた結果、入所から通所授産に切り

替えた。町中の住宅ではバリアの関係で生活が出来ない14名のための福祉ホームを建設し、残りの26名を1年かけて住宅を探し、複数人利用の寮から、誰にも遠慮のいらぬ住宅に移住した。

ここで、思いも寄らない事が勃発したのである。なんと、短期間に入寮していた7名の方が、次から次へと結婚したのである。

4名は、現在も元気に働いている。この事実を考えると当たり前であるが障害者も当然結婚をしたいと考えている。

今回の江差町の事を併せて考えると、もし、あすなろ福祉会の樋口理事長が、20年前に提案をしなければ、彼らの幸福は実現したのだろうか？そのことを考えると、法人の対応は、利用者の為になつたのではと考えているし、北海道リハビリ理事長石崎氏が、法人発刊の「かがやきだより」の記事の中で示している、障害者総合支援法の第一章総則第一条の二の条文に沿った制度

「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生する事を妨げられない」

このことが、早く実現していたなら、障害者の結婚支援がもっと進んでおり、一人が批判されないうすんだのではと思う。

数字で探そう B型利用者の将来 ＝自立生活移行者僅か2.3%＝

国の人口は昨年4月現在、約1億2475万人。障害者人口は、国の資料で約964万人。約7.7%である。我が国の障害者対策の中核部署は厚労省障害保健福祉部。令和4年度予算額は約2兆円強。障害者一人当たり僅か約20万円。ドイツに我が国の就労継続支援B型に似た施設が有るが、利用者個人には月間15万円前後支給。比較して我が国のB型利用者はゼロである。B型法律の経営目的には「一定工賃を支給し自立生活に移行させる事」とある。自立生活に必要な収入は障害基礎年金2級と合算し尚かつグループホーム利用で工賃4万円台。これをクリアしている施設は、国の2020年度工賃調査資料では、約1.2万施設の内335施設の2.8%である。先のドイツの例のように欧米の福祉先進国の多くは、人が生きて行く為に必要な、衣食住支援が最優先されているが、多くのB型利用者の将来は低工賃では結婚出来ない。B型関係者の皆さん頑張ってください！

令和4年度 職員研修会開催

12月10日(土)に令和4年度東京リハビリ協会職員研修会を開催した。今回は新型コロナウイルス感染症を踏まえ日の出事業所と立川事業所をZOOMで繋いでの開催となった。

緑川理事長の挨拶では、この3年両事業所で新型コロナウイルスで多数の陽性者が発生したこと、引き続き気を引き締めて業務・支援に当たるよう話があった。



沼子様 理事 常務 社会福祉法人 鴻沼 斎藤 子 福社 会 常務 理事 斎藤 子

お招きし、「障害のある人とともに働く」

次に社会福祉法人 鴻沼福社 会 常務理事 斎藤 子氏を

冒頭に「障害のある人が働くこと」の意味について、斎藤氏が大切にされているという「障害者の権利宣言」の意味から「障害者の完全参加と平等」の実現について説明された。そして障害のある人が労働で得る社会との繋がりが、働いて得た収入で自身の生活の基盤をつくること、働くことで自分を成長させ自己実現に繋げていくことの重要性を話された。

また弊会で年々増加する発達障害者の方達の支援について、斎藤氏の法人における工夫と実践を紹介していただき、行動に表れている背景にあるものを理解すること等が大切であると話された。講演が終わると職員から発達障害のある方

に対する日常的な支援で不安に思うこと等、活発に質問が出され、それに対し1つひとつ丁寧に応えてくださり、大変意義ある時間であった。



斎藤 業務執行 理事 斎藤 子

名を受けた時に「何が、障害者福祉か？を考える」のテーマを主催者から示された。

今回の研修会では、その時の話の一部を紹介した。「働く」については、現在、民間企業においては、法律では社員百名に対し23%以上雇用する事が義務づけられているが、残念ながら1976年に雇用率制度が公布されて46年間、一度も達成したことが無く、企業の半数以下が未達成である。雇用されない人の働く

これでは生きて行く事は出来ない。一方、ドイツにはB型に似た施設があり利用者には、一人平均月額15万円前後の助成金が支給されている。残念ながら、我が国には人が生きていく為には欠かせない「衣食住支援」の考え方が欠如しており、B型利用者には助成金は支給されていない。当会のB型三施設には、約130名の利用者が在籍、半数以上が親から離れ、自立生活を営んでいる。その理由は、工賃を全国B型施設平均の45倍を支給しているからである。一日も早い「衣食住支援」を願っている。



緑川 理事長 長 長より 障害者虐待防止 研修として

最後の緑川理事長より「障害者虐待防止」について講義がある。障害者虐待の行為について、身体的、性的、心理的、放棄・放任、経済的虐待の5つの分類があり、それぞれのような行為が虐待にあたるのか等、具体的に作業を始め日中支援における事例をあげ、職員が理解しやすい説明であった。

最後に緑川理事長より「障害者虐待防止」について講義がある。障害者虐待の行為について、身体的、性的、心理的、放棄・放任、経済的虐待の5つの分類があり、それぞれのような行為が虐待にあたるのか等、具体的に作業を始め日中支援における事例をあげ、職員が理解しやすい説明であった。

また、利用者への言葉遣いから利用者の働く場所について、支援の質、環境の質、財務の質等、全ての質を磨き上げることの重要性を話され、福祉施設の職員として利用者の人権を守り、絶えず質の高いサービス提供に努力すること、施設は利用者の権利を守る者であると結ばれた。

五日市警察署のご協力による 交通安全講習会開催

令和4年12月9日16時30分から、日の出事業所で交通安全講習会を開催した。講習会には五日市警察署 交通整備課より池田警部補ほか1名の方を講師に招き、交通安全意識の徹底や事故防止の周知徹底を図ることを目的に、所用車を使用する職員と有期契約職員を対象に、約1時間の講習を行っていただいた。講習会は、約35分間の交通安全教育用映像教材を用いた交通事故防止の啓発のほか、道路に潜む危険について、自動車や自転車の運転者の目線、歩行者の目線など様々な角度の映像を通して、交通事故防止のポイント等を学んだ。視聴した映像教材は、実際に交通事故を起こしてしまった人の社会生活(家庭や仕事)への影響などについてリアルに描かれており、見ている側も、もし自分が事故を起こしてしまったら...と考えさせられる内容であった。業務上だけでなく、通勤等においても自動車を使用する時には、ハンドルを握る責任の重さを常に感じながら、安全運転を心がけてほしい。

(日の出事業所 管理本部 次長 橋本紀子)



交通安全について講話される 池田警部補

場が国制度として65年前の1958年に制度化された授産施設(現B型)。残念な事に月額工賃は一人平均が僅か、16千円以下。

(立川事業所 所長 小川美智子)



女子力満点デコレーション!

令和5年12月3日(土)立川事業所では、干支グッズ作りを行いました。今年

事業所だより

立川事業所

干支グッズ小物作り

最後は作品と一緒に記念撮影をして終わった。後日、皆さんからは「さっそく玄関に飾ってます!」「来年も作りたいです!」等の声をいただいた。コロナ禍で制約も多い日々だが、これからも皆さんが楽しめるイベント

さんでできた。

おめでとうございます! 第71回東京都知事感謝状受賞

12月に行われた、第71回東京都社会福祉大会において、日の出事業所の高橋章係長が、「東京都知事感謝状」を受賞した。長年に渡り、社会福祉事業に従事してきた功績が認められ、今回の受賞に至った。

その豊富な経験を、今後の業務でも発揮してもらいたいと思う。(管理本部係長 中村恵輔)



授与された感謝状

◆編集後記◆
ご意見や特集希望等、ございましたらお気軽にお問合せ下さい。(高橋章)

上映前には「今日は何を見るのかな?」「私の見たい映画は上映されるかな!」と、スクリーンの前で期待たつぷりのワクワクした表情で待っており、映画が始まると笑ったり、ウンウンと頷いたり、拍手したりとそれぞれが楽しんでいました。残る3回の開催も皆さんがワクワクして楽しめるイベントにしていきます。
(日の出事業所サービス管理責任者 主任 大沼琴美)



「コナンが見たい人〜?!」「は〜い!」
2月4日、記念すべき第一回リハビリ映画まつりは、「ドラえもん」のび太の宇宙小戦争2021!!

20歳のお祝い



市瀬 諒 さん



有馬 蓮 さん

いろいろなことにチャレンジして何事にも一生懸命がんばります。

枕カバーやシーツを流す仕事を頑張つて、大好きな武蔵野線にたくさん乗りたいです。

今年度は立川事業所の有馬蓮さんと日の出事業所の市瀬諒さんの2名が20歳を迎えたため、令和5年1月9日「成人の日」に、20歳のお祝いを行った。20歳の記念の節目にあたり、より一層の活躍を期待し、お祝いとして記念品のボールペン等を贈り、記念撮影を行った。これからの人生が幸多き日々であることを祈り、更に大きく羽ばたいてくれることを願う。
(日の出事業所所長 敷根恵美子)

は兎年というところで『兎のフォトフレーム』を作成。兎の絵が描かれたポストカードに色を塗ったり、カラフルなシールを貼り付け、できあがったポストカードをデコレーションしたフォトフレームに入れて完成。個性的で芸術的な作品がたくさん

HAPPY BIRTHDAY 2月 3月

立川事業所		立川事業所	
岩田 友宏 さん	小川 寛道 さん	小川美智子 さん	熊谷 健二 さん
北島 順 さん	熊谷 健二 さん	塩田 徹 さん	新谷 龍史 さん
立田 智恵子 さん	田中 利明 さん	永倉 幸 さん	永瀬 智晴 さん
林 晴雅 さん	古谷 優有 さん	山下 尚之 さん	山本 ももか さん
日の出事業所		日の出事業所	
伊藤 政夫 さん	小野 記史 さん	小原 登美子 さん	川上 朋樹 さん
木村 昭夫 さん	小林 恵子 さん	齋藤 勇気 さん	櫻澤 美佳 さん
清水 裕子 さん	高石 龍星 さん	蓋 盛 さん	島山 徹也 さん
原 マイリン さん			
有馬 蓮 さん	大口 修央 さん	大澤 剛史 さん	黒羽 隆司 さん
初宿 汐里 さん	関口 典宏 さん	田中 愛子 さん	中村 恵輔 さん
中村 三宮原 さん			
日の出事業所		日の出事業所	
秋間 得匡 さん	新井 優子 さん	石川 薫 さん	伊藤 みゆき さん
及川 巖 さん	大石 信子 さん	大友 幸一 さん	大友 隆江 さん
大槻 由起 さん	岡崎 真知子 さん	小田 一晃 さん	木曾 昌宏 さん
来住 野美奈 さん	小峰 和博 さん	敷根 恵美子 さん	瀬川 京子 さん
高橋 章 さん	東海 林 淳 さん	中村 由美子 さん	橋本 翼 さん

トを考えていきたい。
(立川事業所サービス管理責任者 主任 小池達耶)

日の出事業所

リハビリ映画まつり2023

年末年始の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、1月のイベントを行うことができなかったため、2月と3月は存分に楽しんでもらうため、予定されていた企画のほかに、『リハビリ映画まつり2023』と銘打ち、アンケートで人気のあった4本の映画を上映することにした。